

## 「みやぎの将来ビジョンタウンミーティング」開催概要

「(仮称)みやぎの将来ビジョン」の策定に当たり、10年後の県の将来像などについて広く県民の皆さんから意見を伺うことを目的に、「みやぎの将来ビジョンタウンミーティング」を県内3か所で開催しました。

## 1 「みやぎの将来ビジョン タウンミーティング 県南」

日時：平成18年9月1日(金)13:30～15:30

場所：柴田町槻木生涯学習センター大ホール(柴田町槻木)

内容：

- ・ 講演「みやぎの将来像について」 村井嘉浩宮城県知事
- ・ 「(仮称)みやぎの将来ビジョン」骨子案説明 宮城県企画部政策課長
- ・ 意見表明 勅使瓦正樹さん(蔵王町), 小林郁恵さん(川崎町),  
出雲洋一さん(仙台市), 水野暢大さん(塩竈市)
- ・ 参加者との意見交換

参加者：198名

## 意見表明者及び会場参加者からの主な意見等

宮城県PTA連合会顧問 勅使瓦正樹さん(蔵王町)

- ・ 県の取り組むべき課題は、子どもの学力格差の解消、全体の学力向上、「人」がみやぎブランドとなるような取組、そして宮城らしい郷土づくり教育の推進である。
- ・ 県が目指すべき姿として「意欲的に職業選択ができるようになっていくこと」「生まれ育った地域に戻って子どもを産み育てることができるようになっていくこと」「地域の特性を生かした教育・地域づくりが実現していること」を提案したい。

宮城県指導農業士 小林郁恵さん(川崎町)

- ・ 女性や高齢者が元気にならなければならない。例えば、高齢者が作った野菜を学校給食の食材として活用し、それを食べる子どもたちの姿を見れば、高齢者も一層元気になるという好循環を生むと思う。
- ・ 米飯給食を充実し、子どもたちが地元のおいしい米を食べる機会を増やしてほしい。

荒町商店街振興組合副理事長 出雲洋一さん(仙台市)

- ・ 郊外の大規模店舗の影響などで、商店街の衰退が激しい。経済的に成長することも大事だが、持続可能な社会、永続できる宮城県を目指してほしい。
- ・ 地域づくりは人づくり、子育てと同じだと思う。夢を見ることができるような地域を目指してほしい。

塩釜蒲鉾商工業協同組合理事 水野暢大さん(塩竈市)

- ・ これからはアジアの時代である。中国の富裕層などの影響で農水産物の国際需要が高まって

いくと思われる。「量より質」で、世界に通用するものを生産していきたい。

- ・ 宮城県は、道路、港湾、空港などの流通基盤に非常に恵まれている。そして食材や生産物などの質も非常に高い。今後、国際的な経済都市になる可能性を秘めていると思う。

会場から（意見記入票により意見交換を実施）

- ・ （ビジョン全体について）財政状況もあり、最重点・重点と順位を付けて明示すべきではないか。また、具体的な数値目標を示すべきではないか。
- ・ 中心市街地の空洞化が続き、地域商店の衰退が進んでいる。意欲ある商店を、集中的かつ継続的に支援し、活性化の成功事例を創出するような施策を検討してほしい。
- ・ 少子化問題について、育児休暇など、一般の会社では取れないところが多いのが問題である。
- ・ 経済優先だけでなく、保健福祉について行政の役割、安心の保障を前提としてほしい。そうしないと、経済が悪いときには福祉が切り捨てられることになりかねない。
- ・ 近々想定される地震をはじめ、危機管理の徹底を図ってほしい。

## 2 「みやぎの将来ビジョン タウンミーティング 気仙沼」

日時： 平成18年9月5日（火）13:30～15:30

場所： 宮城県気仙沼保健福祉事務所2階大会議室（気仙沼市東新城）

内容：

- ・ 講演「人口減少社会における地域振興」 柳井雅也東北学院大学教授
- ・ 「(仮称)みやぎの将来ビジョン」骨子案説明 宮城県企画部政策課長
- ・ 意見表明 菅原昭彦さん（気仙沼市）、三浦千加良さん（気仙沼市）、小野寺範子さん（登米市）、坂下清子さん（石巻市）
- ・ 参加者との意見交換

参加者： 107名

### 意見表明者及び会場参加者からの主な意見等

気仙沼商工会議所副会頭 菅原昭彦さん（気仙沼市）

- ・ 骨子案に書いてあることは確かに必要なことだが、宮城らしさのインパクトが見えてこない。宮城らしさを発揮するためには、ビジョンの中に県でなければできない施策をきちんと謳っていくことが必要である。
- ・ 道州制の視点は今後のプランにどう反映されていくのか。東北の中心としてイニシアティブ、リーダーシップを発揮していくべきであり、そのことが今の宮城県内における地域発展の方策にもなっていくと思う。

宮城県漁業青年団体連絡協議会会長 三浦千加良さん（気仙沼市）

- ・ 地震や津波が発生する可能性が高い中で、実際にそれが起こってしまうと60～70代の人たちがみんな仕事をやめてしまい、宮城の水産業が衰退してしまうのではないかと懸念している。県などの行政ではどのように考えているのか。打開策などについて真剣に考えてほしい。
- ・ 伝統芸能は、次世代にしっかりと引き継いでいかなければならない。

子育てサポーター「てって」副会長 小野寺範子さん（登米市）

- ・ 今こそ、社会教育、家庭教育に県全体で取り組まなければならない。関係部署の連携、協働により家庭教育に力を入れてほしい。
- ・ 出生率も全国平均を下回り、将来の宮城県に不安を感じる。全国同様、小児科、産科がないことが少子化に拍車をかけているのではないか。宮城大学で助産師の養成に力を入れてほしい。

農漁村体験型民宿「のんびり村」村長 坂下清子さん（石巻市）

- ・ 民宿に来てくれた客が意外にも「星がきれい」「鳥の声がいい」といった普通のことに感動している姿を見た。これからも土地でとれる食を伝えることに取り組んでいきたい。
- ・ ラムサール条約や世界遺産には及ばなくても、「宮城県の遺産」として残したい良い場所は県内にたくさんあると思う。

会場から（意見記入票により意見交換を実施）

- ・ 富県戦略推進に向け、県も地域と一緒に地域資源の掘り起こしやその活用に取り組んでほしい。
- ・ 障害者や高校生などの就職問題をしっかりやってほしい。地方で大きな問題になっている結婚に向けた出会いの場づくりに取り組んでほしい。
- ・ 地域医療についてはかなり心もとない状況で、地域で最後まで人生を全うしたいができないと思う。
- ・ 地方は都市と比べ交通の便が悪く、車がないと移動できない。公平な交通網の整備をお願いする。
- ・ 人の問題、財政の問題もあり、計画の中で実行できないものもでてくるのではないか。地方の時代と言いながら、県は人も金も出さず丸投げにするのでは無責任と考える。実行することこそ重要である。

### 3 「みやぎの将来ビジョン タウンミーティング 大崎」

日時： 平成18年9月7日（木）13:30～15:30

場所： 宮城県大崎合同庁舎1階大会議室（大崎市古川旭）

内容：

- ・ 講演「人口減少社会における地域振興」 柳井雅也東北学院大学教授
- ・ 「（仮称）みやぎの将来ビジョン」骨子案説明 宮城県企画部政策課長
- ・ 意見表明 佐々木祐子さん（美里町）、佐藤智恵さん（栗原市）、木村信一郎さん（大崎市）、千葉実さん（栗原市）
- ・ 参加者との意見交換

参加者： 160名

#### 意見表明者及び会場参加者からの主な意見等

美里町農業委員会委員 佐々木祐子さん（美里町）

- ・ ビジョンの中では、県内の加工業者と生産農家との信頼関係の中で県内の農業者を育ててい

くという視点も持ってほしい。

- ・ 稲作とのバランスのとれた生産構造推進のために、園芸、畜産等の生産条件整備は全体に必要である。また、水田農業からの脱皮を図るには、基盤整備や畑作化条件、施設型農業への推進を図る必要もあるので、この道へのプロセス支援をしっかりとお願いしたい。
- ・ 本県の食料自給率向上やブランド化、地産地消を進めるためにも、試験研究機関を充実し、園芸、畜産指導、品種改良、新規作物の提案など技術の普及指導を強めてほしいと思う。

主婦 佐藤智恵さん（栗原市）

- ・ もっと近くに資格や職業訓練ができる場所があって、そこで仕事の紹介をしてもらえらば、女性は家庭の事情や出産、子育てで一時的に仕事を離れても、安心して再度仕事に就けるのではないかと。
- ・ 地域で病児保育や預かり保育ができれば、働いているお母さんや子育て中のお母さんはどんなにか助かると思う。

四季彩通り商店街振興組合理事長 木村信一郎さん（大崎市）

- ・ 地域の人たちを生き返らせるのに大きなお金は必要なく、例えば、清掃業や庁舎の売店の運営などを地域の団体に任せるなど、公的機関は地域にいろいろなものを還元することが大切ではないかと。
- ・ 補助金は、会社でいうならば資本金的な意味合いを持たせるべきではないかと。また、肥料的な役割も持たせ、一度出した後は自分たちでしっかり運営させ、根っこが生えたらまた与えるというような形をとるべきではないかと思う。

<sup>もんじ</sup>  
「文字を語るべっちゃんの会」会長 千葉実さん（栗原市）

- ・ 過疎化や少子化が進む中、もっと活力ある地域にしていこうと地域づくり団体を立ち上げ活動しているが、他地域の活動との連携を進めるとともに、地域の産品、観光資源をより有効に活用していければと思う。
- ・ 自動車産業は、大変裾野の広い産業であるとともに多くの就業機会を与えてくれるものである。こういった自動車関連産業を一層活性化、促進していただき、我々に力を与えてほしい。

会場から（意見記入票により意見交換を実施）

- ・ 高齢社会に突入しているが、高齢者といえども役割を持ち、心身ともにバランスの取れた健康な生活を営めたらと思う。生き甲斐を持って生活できるようにすれば、医療費や介護費を無駄にしないようにできるのではないかと。
- ・ これからは、県や市町村だけが公共的サービスを提供するのではなく、NPO法人や一般住民が公共的サービスの提供に加わる必要があると考える。子育てや介護はすべての住民で支えるべき仕事だということを普及させることも大切だと思う。
- ・ 観光産業の本県経済に及ぼす影響は大きいと思う。本県の現状を鑑みると、隣県に比べ公共交通網が弱いと言わざるを得ない。地域に住む者が生活する上での道路の整備は必要と考えるが、宮城県に来た方が利用しやすいという視点も必要ではないかと。
- ・ 少子化への対策はいろいろと言われているが、果たして実効があがっているのだろうか。少子化対策には真剣に取り組んでもらわなければならない。また、少子化と合わせて、国力の維持には子どもの教育の質的な向上が急がれる。国、県、自治体の多大なる支援が望まれる。
- ・ 今一番の問題は人口減少と考える。出産費用の一部助成、育児助成など、人口の増える施策をお願いしたい。